

子どもたちの姿

保育所の子どもたちは、明るく素直で好奇心おう盛です。

しかし、よく見ると、友だちと一緒に楽しんでいるような子どもも、自分の思いがうまく伝えられずトラブルになったり、遊びが發展せず心から楽しんでいない場面があります。

大正保育所では、子どもが楽しいと感じる遊びを提供していけば、活動も人間



わくわくどきどき忍者ごっこ

忍者に変身

いろいろな材料で作った忍者服を身に付け、自分らしいに忍者になりきりました。

忍者の修業

鈴の付いたひもを張り、鈴を鳴らさないように跳び越えたりくぐったりする修業や、プールで苦手な顔つけに挑戦する「潜る術」の修業などを、みんなでがんばりました。

忍者の生活

染色した布でいろいろなものを作る遊びや、テーブルやいすを作る木工遊びでは、みんなで協力して作り上げました。

忍者屋敷づくり

さらに興味が膨らんで、遊びが發展しました。忍者屋敷づくりでは、みんなで見取図を描き、からくり戸やのぞき穴など次々にアイデアを出し合いました。



「忍者ごっこ」で修行をする子どもたち

お互いを認め合い、仲間と共に

同和保育の取り組み

関係も豊かになるのではないかと考え、「忍者ごっこ」を行いました。

力を合わせて

「忍者ごっこ」

子どもたちは忍者になりきって遊ぶことで、楽しみを感じ、いろいろなことを探索しようとする意欲がわいたようです。また、仲間と力を合わせて作り上げる喜びも体験しました。そのことが力となつて、友だち

子どもから学ぶ

私たち保育士も、子どもたちの姿を通して、子どもをあ

「ありのまま」の自分を受けとめてもらつ心地よさや、「自分も必要とされている喜び」を感じて、思いや考えを表現できるようになり、自信が持てるようになりま

りのままに受け止めることの大切さや、みんなが一緒になつて楽しめる遊びを提供する中で子どもがしっかりと遊べば、一人ひとりが力を發揮して、仲間関係も豊かになることを学びました。

すべての子どもが差別されることなく、互いに認め合い、自分の力を伸ばしていくことができるよう、これからも人権感覚を高めていきたいと思ひます。

(大正保育所の取り組みから)